視　察　報　告　書

令和５年７月 20 日

伊勢市議会議長
品川　幸久　様

会派名　新政いせ
上村　和生

令和５年７月 11 日（火）～　７月 13 日（木）の３日間、先進地視察を実施しましたので下記のとおり報告します。

記

日　程　　：令和５年７月 11 日（火）～　７月 13 日（木）

視察先　　：７月 11 日（火）長野県茅野市
（視察目的）　　AI 乗合オンデマンド交通「のらざあ」について
７月 12 日（水）東京都昭島市
アキシマエンシスについて
７月 13 日（木）静岡県三島市
スマートウエルネスについて

参加者　　：上村　和生(幹事長)、西山　則夫(副幹事長)、宮﨑　誠(会計)

長野県茅野市

視察項目：AI 乗合オンデマンド交通「のらざあ」について
視察場所：茅野市役所
視察概要：　茅野市では、市民の足である路線バスを維持するために平成 28 年に路線変更を実施したが、利用者数は改善せず、補助金は年々増加傾向にあった。

第２次地域創生総合戦略の作成に当たり、AI オンデマンドシステムを導入したハブ＆スポーク型の地域交通の転換する方針が示された。具体的には、令和４年に 13 路線を廃止し、AI オンデマンド交通「のらざあ」へ移行。また、通学・通勤バス路線を３路線から５路線に拡大し、全 13 路線を継続路線として地域交通に再編を行った。

AI オンデマンド交通「のらざあ」では、路線バス廃止エリア内に乗降場所を約 8,000 ヶ所の停留所と仮想停留所を設け、利用時には電話とアプリ両方での予約が可能となっていた。

所感　：　茅野市では、令和４年に路線バスを廃止し、AI オンデマンド交通「のらざあ」を導入することで利用者数も増えたそうである。また、AI オンデマンド交通「のらざあ」の運行にあたっては、通常タクシー運行で得られる想定金額との差額（定額）をタクシー会社へ補助する方法で行われていた。

その他、通学・通勤バス路線を 3 路線から 5 路線に拡大などで、保護者などの駅への送迎の負担や渋滞緩和にもつながったそうである。大変良い取り組みをされていた。

伊勢市においても、導入できないか更なる研究をしていきたい。

東京都昭島市

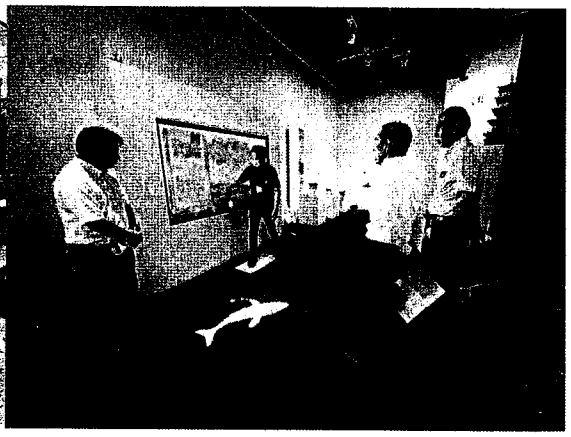
視察項目：アキシマエンシスについて

視察場所：アキシマエンシス

視察概要：　昭島市では、市民の学習意欲の高まりに対応できる図書活動の拠点としての施設機能、また、文化財を後世に伝えていくための施設機能などを進めるため昭島市庁舎跡地利用基本構想を策定していた。しかし、児童発達支援センターの設置が市の努力義務となる児童福祉法改正されたこともあり、小学校の統廃合で発生した廃校（つつじヶ丘南小学校）への建設地変更がされ、（仮称）教育福祉総合センター建設が行われた。その後、公募により「アキシマエンシス」の愛称となった。

「アキシマエンシス」は、廃校を改装し、体育館は様々な行事・

イベント会場として、校舎棟は教育センター・子ども家庭支援センター・児童発達支援センター・男女共同参画センター等の福祉施設として活用がされていた。また、新たに校庭へ国際交流文化棟を建設し、市民図書館・郷土資料室（常設展示）・市民ギャラリー・ライブラリーカフェなどが設置され、文化・学び・知・活動の拠点として運営がされていた。



所感　：　図書館は、セルフ貸出機・資料検索機・座席予約システム・自動化倉庫を装備し、ICT を活用した利便性の高い施設であった。また、郷土資料室も ICT を活用し、現物とデジタルの両面から昭島の歴史・民俗・自然に触れられる施設となっていた。

説明内容は、図書館や郷土資料室の機能等についてであった。建設時の苦労や、施設の素晴らしさは理解できた。

しかし、伊勢市における廃校利用に生かせるのではと考えていたので、少し残念であった。

静岡県三島市

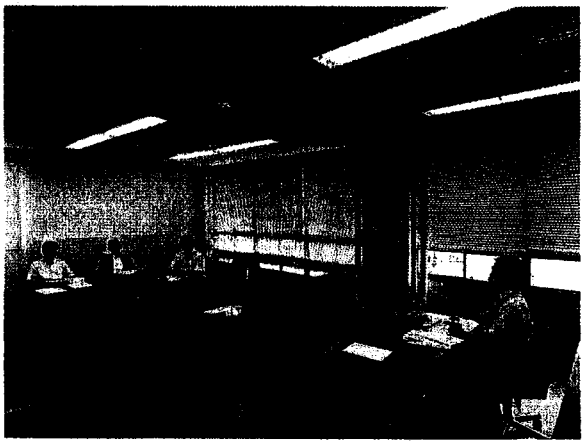
視察概要：スマートウエルネスについて

視察場所：三島市役所

視察概要：三島市では、スマートウエルネスみしまでは、健やかで幸せに暮らせるまちを目指して様々な事業を展開していた。

理解しやすくするための「“健幸”都市みしまのたまご」のイメージ図では、核には食と運動を中心とした「健康づくり」を位置付け、その外側に社会参加の仕組み[illegible]として「いきがい・つながり」を据え、「地域活性化・産業振興」がこれを包み込む形で、健康から産業振興にまで幅広い取り組みとなっていた。

具体的には、
歩きたくなる環境づくりとして、
・ガーデンシティーみしま（公共花壇・地域花壇・企業花壇）
　自然と歩きたくなる美しい街並みを市民協働で作る。
・街中がせせらぎ事業
・回遊性を持たせる仕掛け
　各種イベントでのスタンプラリー等
・みしまタニタ健康クラブ
　活動した分のポイントを付与。



所感　：スマートウエルネスみしまでは、「健康づくり」が全ての中心であり、健康でいられるために歩きたくなるように街を地域の力でつくる。そのような取り組みが、進められていた。
　総合計画も、健幸が中心に作成がされているとの事で感心した。
　伊勢市でも、全ての事業を健幸の観点から見直すと新たな発想が出てくるのではと感じた。

令和５年７月２５日

伊勢市議会議長　　品川　幸久　様

西山　則夫

新政いせ行政視察の報告

１．視察先及び視察内容

令和５年７月１１日（火）　長野県茅野市

・AI 乗合オンデマンド交通「のらざあ」の取り組みについて

令和５年７月１２日（水）　東京都昭島市

・アキシマエンシスの取り組みについて

令和５年７月１３日（木）　静岡県三島市

・スマートウェルネスみしまの取り組みについて

２．視察所感

長野県茅野市

AI 乗合オンデマンド交通「のらざあ」の取り組みについて

・AI の導入＆新しい地域公共交通として、路線バス１３路線を廃止して、「のらざあ」を運行事業者４社（総参加）による自主共同運行で行っている。

路線バスの乗降客が激減したことで、新しい移動サービスに踏み切ったことで評価がされているとの事で今後も期待したい。

乗降場所として停留所と仮想停留所を設置し、仮想停留所はアプリで予約する時に確認できる。市内の多くの場所から乗りたいところ、行きたいところ、希望時間を選択できることは利用者にとって便利なことであると思われる。

・利用方法としては電話利用、アプリ利用の選択ができることも利用が増えるのではないかと思われる

・「のらざあ」とは別に朝夕の通学・通勤時間帯には対応した路線バスを運行し茅野駅周辺の渋滞解消に効果が出ているとの事でこれも参考になった。

・今後は新しい地域公共交通システムの導入に向けて「目的地までをシームレスにつなぐ公共交通網の形成、市街地と観光地・別荘地間の近接化」を目指していく。現在の取り組みは入口であって、１０年ぐらいでイメージを作り上げたいとの思いを強調された。期待をさせていただきたいと思った。

東京都昭島市

アキシマエンシスの取り組みについて

・平成２５年につつじヶ丘小学校とつつじが丘北小学校の統合が承認。２６年つつじヶ丘小学校の跡地へ建設地変更、名称を「社会教育複合施設」から「（仮称）教育福祉総合センター」に変更された。その後公募により愛称「アキシマエンシス」となり、多くの機能を持った施設である。小学校統合の経過はあったが、施設としては複合型施設である。

・主に国際交流共用文化棟の図書館機能について説明を受けた。図書館運営に力をいれており、図書館の門戸をひらいており、貸出期間無制限、図書館カードの０歳児からの無料化などを進め、登録数４万人以上と成果を上げている。また、貸出本管理方法として記帳、記録を銀行の通帳方式を取り入れていることは斬新なアイデアであると感じた。

運営は指定管理者で運営されているが、市のかかわり方のウエイトが大きいと感じた。

・建設に関わる経費については、総額約５４億円程度であったが、防衛施設交付金、特定財源を活用したため市の負担金は少なくて済んだそう。交付金の活用などで建設されることから、市の負担が少ないということはメリットがある。

・同施設内に郷土資料館もあり、見学させていただき、今後の参考にさせていただいた。

静岡県三島市

スマートウェルネスみしまの取り組みについて

・総合計画の見直しが指示され、①スマートウェルネス②ガーデンシティ③ファシリティマネジメントについて、重点計画として５１のプロジェクトがスタートその中でこだわりは「健幸都市を目指すには、チーム三島で取り組む」事が必要だとの認識を合わせた。市長の思いはあったと思うが作り変えることは大変だっただろうと推察する。

・歩きたくなる、環境づくり、仕組みづくりを実践していくために、みしまタニタ健康クラブを終了し、「健幸づくりアプリ（KENPOS）を令和４年１２月からスタートさせた。登録者数は以前に比べて増傾向。新しいことを事業化するのは大変だが担当者の熱意は伝わってきた。

・今後の目標は①スマートウェルネスタウン②健幸 DX の推進③ふらっとみちくさ大作戦④地域の力を活用した健幸づくりとリカレント教育⑤サイクリングライフのすすめ・・などを中心に事業を進めていく事がよく理解できた。

令和５年７月２５日

伊勢市議会議長　品川　幸久　様

新政いせ　宮﨑　誠

新政いせ行政視察報告

１．日程、視察先及び視察内容

(1)　令和５年７月１１日（火）

長野県茅野市：ＡＩ乗合オンデマンド交通「のらざあ」について

対応者：企画部 地域創生課長　小池　俊正　様他

(2)　令和５年７月１２日（水）

東京都昭島市：アキシマエンシスについて

対応者：教育委員会事務局 生涯学習部長　磯村　義人　様他

(3)　令和５年７月１３日（木）

静岡県三島市：スマートウェルネスみしまについて

対応者：議会事務局 事務調査係長　主幹　久保田　浩正　様他

２．視察所感

(1)　長野県茅野市：ＡＩ乗合オンデマンド交通「のらざあ」について

本市ではコミュニティバス「おかげバス」を運行する中、利用者数の少ないルート及び時間帯にタクシー車両を活用した予約制のデマンド運行を実施している。茅野市の取り組みでは、車社会の定着等によるバスの利用状況が低調化していることを鑑み、地域創生総合戦略及び未来都市構想（スーパーシティ）の検討にあたり、新しい地域公共交通体系への転換・再編に伴い、ＡＩ乗合オンデマンド交通「のらざあ」がスタートしている。また、ＭａａＳの実現を見据え、ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）を推進することとしており、ＡＩ及びＩｏＴ等の最新技術を活用したデマンド運行が導入されている。

単純に本市との相違点と言えば、伊勢市では利用者が予約専用電話を利用するのに対し、茅野市では電話予約だけでなくスマートフォンアプリを利用しての予約が可能であること。また、既存のバス停だけではなく、各拠点となるバス停は目では見えない仮想のバス停となっており、スマートフォンアプリで確認できる点である。デマンドバスとして利用されている車両はハイエースコミューターなど計８台での運行が実施されており、令和４年度からは朝夕の通学通勤時に一時交通に合わせた通学通勤バスの本格運行も開始されている。通学については、沼木バスでの活用方法と類似している。本市では観光地としての公共交通は充実しているが、茅野市内の別荘地及び観光地へのアクセスが脆弱との課題も伺うことができた。運転のできない児童生徒及び運転免許を返納した高齢者に対し、デマンドバス及びタクシーを利用した交通手段の確保は全国的な課題である。本市においても、ＡＩを活用した地域公共交通が検討され、市民サービスに繋がることを期待したい。

(2)　東京都昭島市：アキシマエンシスについて

昭島市の図書館、教育及び健康福祉サービスを提供している「アキシマエンシス」は、学校の統廃合により廃校となった小学校跡地が利用されており、グラウンドを活用して図書館が新設されている。本図書館以外にも昭島市が合併される以前の分室が点在しているが、車両による移動図書館も活用されている。図書館内部にはミニコンサートなど各種イベントができる場所が設けてあり、エリア内での私語については一部を除き禁止されていない。学習及び仕事場として活用できる予約制のスペースも設けてあり、教育民生委員会で視察した神奈川県大和市文化創造拠点「シリウス」と同等の機能を併せ持つ施設となっている。図書館として「シリウス」との相違点と言えば、やはり静寂性であろうか。アキシマエンシスでは、こどもたちの声が飛び交うことのできるスペースであるとともに、親子での読み聞かせができる自由な環境であることである。

旧小学校の校舎においては、子育てなど相談できるスペースや不登校児童生徒が通い学べる環境も整備されるとともに、昭島市の文化だけでなくアキシマエンシス（クジラ）の化石などの展示や保管施設としても活用されている。本市における図書館の在り方、学校統廃合により現在廃校となっている小中学校施設の活用の在り方など、考えさせられる点が多くみられた。単純に考えれば、廃校となった施設を利用することは簡単であるかもしれないが、如何に市民サービスとして繋げられるのか課題と捉え活用方法を検討していきたい。

(3)　静岡県三島市：スマートウェルネスみしまについて

三島市においても本市の健康ポイント事業と同様の取り組みとして開始されている。本市の健康マイレージと同様に、健康づくりを「楽しみながら長く続けられることが大切である」との考えは一致しているが、主体として「健康づくり」から「いきがい・きずなづくり」へ、そして「地域活性化・産業振興」へと繋がる仕組みづくりとなっている。本市の「伊勢の元気人チャレンジ記録シート」と同様に紙ベースでのポイントカードで景品応募も可能であり、「ＫＥＮＰＯＳ」という三島市オリジナル使用のＷＥＢ・アプリサービスも展開されている。現在、高齢者の方もスマートフォンを持っている方が多くなったことから、アプリを活用して日々の健康管理を見える化できている点は本市でも是非活用したいものである。また、三島市では、働く世代の健康の維持・増進を目的に従業員の健康づくりに取り組む市内企業を対象に健康経営支援事業を展開している。事業内容としては、ベジメータ（野菜摂取状況測定器：伊勢市駅前健康福祉ステーション内にも設置）などによる出張鑑定団、生活習慣病及び歯周病予防などについて保健師・栄養士・歯科衛生士による健康運動講話及びメンタルヘルスなど、従業員への健康投資による企業価値上昇や業績アップを目指す企業に対して市担当職員の派遣などを実施している。この健康経営支援事業は、市内企業にメンタルヘルスを含む健康経営への意識向上を図るとともに、離職低下を促すことが可能であり、本市でも取り組みやすい事業のひとつと考えられる。

これまで本市で展開された健康づくりに関する事業により、市民の関心度は高い水準のままであると考え、事業内容の見直しや健康アプリの活用など利用者目線での利便性の向上に繋がることを期待したい。

令和５年11月13日

伊勢市議会議長　品川　幸久　様

新政いせ　宮﨑　誠

研修会参加報告

１．研修内容

(1)　日時

令和５年10月30日（月）14:00～16:30

(2)　参加形式

オンライン会議ツール（Zoomミーティング）

（https://us02web.zoom.us/j/81622446387?pwd=L2lZaDV3TFdzRGoxcjRxbFFDaDR6Zz09）

(3)　内容

ローカル・マニュフェスト推進連盟　オンライン研修会

「自治体監査と議選監査委員を活かすための実践」

(4)　講師

あきる野市議会議員／議選監査委員：子籠　敏人　氏

可児市議会議員／議選監査委員：川上文浩　氏

司会：武蔵野市議会川名ゆうじ

２．所感

(1)　実践報告「岐阜県内市議監査委員の現状と可児市監査委員事務局と進める監査委員改革」及び各地の状況や現在の取り組み・課題についての意見交換・情報交流

岐阜県可児市にて議会改革を推進されてきた議長経験のある川上氏による監査委員としての取り組み事例は、正に議会改革のひとつとして捉えており、監査委員を経験したことのない私でも議選監査委員の必要性を感じられる内容であった。議選監査委員を廃止した自治体もあると伺っているが、メリット・デメリットをしっかりと理解しているのかという論点も展開され、オンライン研修会に参加された各自治体の議員からも様々な意見や質問を拝聴することができ、良い機会をいただいたと思う。私たち議員は、専門的でない分野においても研鑽し取り組む必要があるとともに、監査業務の厳しさや難しさを知ることができた。議選監査委員を経験した方からの意見として、予算・決算の審議にあたり議員として議論に挑む際の深みと広がりを得る意味では有用であり、議員の質のレベルアップを図る良い機会であるとも伺った。

議選監査委員に関する制度論については、「専門性を高めていくことができるのか、また監査結果を反映させることができるのか」など様々な意見がある中、「議選監査委員を有効に活用せず、廃止してしまうことはもったいない」という意見も多々あり、専門性の高い人材の選出だけでなく、専門性の高い議員としての教育論や、申し送りの方法など確立していく、醸成していくことも必要であると感じた。

視　察　報　告　書

令和５年 11 月 17 日

伊勢市議会議長
品川　幸久　様

会派名　新政いせ
上村　和生

令和５年 11 月７日（火）～　11 月９日（木）の３日間、先進地視察に実施しましたので下記のとおり報告します。

記

日　程　　：令和５年 11 月７日（火）～　11 月９日（木）

視察先　　：11 月７日（火）香川県坂出市
（視察目的）　ビジネスサポートセンター事業について

11 月８日（水）山口県光市
ペット同行避難所の試行実験について

11 月９日（木）山口県山陽小野田市
シティーセールス推進への取組について
コミュニティスクールへの取組について

参加者　　：上村　和生(幹事長)、西山　則夫(副幹事長)、宮﨑　誠(会計)

香川県坂出市

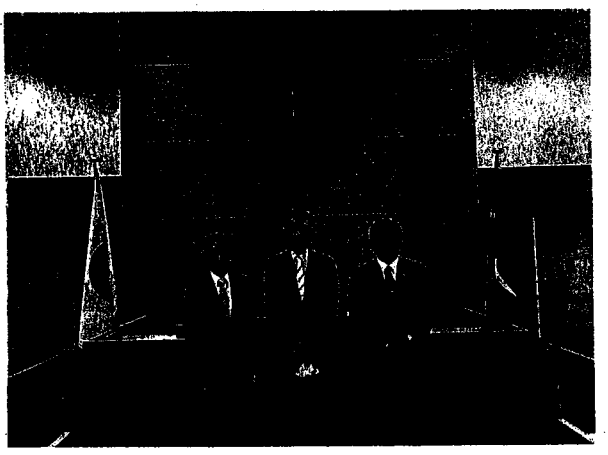
視察項目：ビジネスサポートセンター事業について
視察場所：坂出市役所
視察概要：　令和２年に坂出市では、地方創生推進交付金にて「Biz を中心とした地域内チャレンジ推進事業」として５年間の計画がなされ、令和３年２月の開設に向けて坂出ビジネスサポーター事業（中小企業支援センターBiz）が進められた。

ビジネスサポートセンター事業の運営については、商工会議所へ委託をし、センター長等のスタッフの所属は商工会議所職員となる。センター長は公募・採用後に Biz 研修を経てからのセンター長として勤務となる。

また、年２回の評価会（Biz・商工会議所・市）が開催された事業の評価が、センター長の評価にもなる。

Bizとは	静岡県富士市の「富士市産業支援センター（f-Biz）をモデルに全国20箇所以上の自治体で採用されている相談・支援体制
概　要	相談員：センター長及び事務スタッフ２名が、企業や創業希望者の相談や伴走的支援にあたる
場　所	施設内（市役所東館１F）
開設背景	・経営における意思決定の難しさ（経営環境の激変） ・事業者の意識改革（やる気を引き出す）の必要性 ・従来の支援や相談の多くが指摘型 ・既存の補助制度では一部に恩恵がわたるだけで地域全体への効果が薄いこと
Bizの特徴	高度な専門スキル（ビジネスセンス・コミュニケーション力・情熱）を有する人材を活用して、既存の支援機関が不得意とする機能を補完することで、地域の中小企業や創業者の支援強化を目指す ・アドバイスでなくソリューションを提案（事業者の強みを生かした提案） ・継続的な実行支援（単発の相談でなく）

＊詳細は、資料添付



所感　：　f-Bizは、未来を切り拓こうと志す企業の声に応える、公設民営の産業支援拠点だ。起業家創出と地域産業活性化に向けた活動は国から高い評価を得、Japan Venture Award 2005（主催：中小企業庁）経済産業大臣表彰を受賞しており、Bizの手法を用いた坂出ビジネスサポーター事業を展開していた。

誰もが立ち寄りやすい雰囲気のセンター内であり、高度な専門的スキルを持つスタッフ体制で成果を上げられていた。

また、評価会が年２回あるためか、坂出市を元気にして行こうとするセンター長のやる気が伝わってきた。

伊勢市においても、令和６年度にて産業支援センターの廃止が検討されているが、Bizの手法を用いた支援体制について研究を始めるべきと感じた。

山口県光市

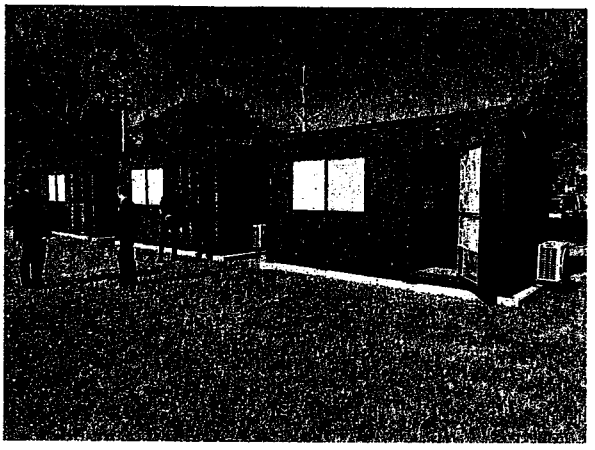
視察項目：ペット同行避難所の試行実験について

視察場所：光市役所

視察概要：　光市では、平成30年7月の豪雨による災害を教訓にし、安心して避難ができるようにと環境整備の一環として、避難所でのペット受入について検討を始めた。その後、令和3年に通常の避難所とは独立をした空き施設（研修センター）を避難所とし、ペット用として隣接する公園に3棟のユニットハウスを整備して、専用ペット同行避難所を開設した。

また、市内4動物病院と、避難時のペットの回診・健康相談等協定を締結されていた。

＊詳細は、資料添付



所感　：　ペットに対しての思いは人それぞれであり、全ての人やペットが同じ空間での避難生活とはならないと考える。伊勢市においても、災害時のペット対策として指針がだされており、別の空間（別室）への避難を考えられている。

しかし、今までの台風や洪水時での避難所へのペット同行避難実績は無いと聞いている。

周知が足りないせいなのか？　ペット同行避難に抵抗があるのか？　それとも施設に問題があるのか等の分析をして行く必要があると感じた。

今後、ペット同行避難訓練や、事前登録制にするなど制度改定などが必要と感じた。

山口県山陽小野田市

視察概要：シティーセールス推進への取組について

視察場所：山陽小野田市役所

視察概要：**趣旨**　第二次将来都市総合計画で設定した『スマイルシティー山陽小野田市』の実現に向けて、シティーセールスを戦略的・効果的に推進するための指針を策定した。

シティーセールスの定義　将来にわたって持続可能な街とするため、まちの魅力を市内外へ発信することで「住み続けたい」と感じる市民を増やすとともに、市外の人や企業に関心を持ってもらい、本市に呼び込むことでまちの活力を高めるための活動である。

推進体制　市長をトップにシティーセールス推進本部（事務局：シティーセールス課）を設置し、職員全員が推進員として全庁的な推進体制を整備していた。また、指針に基づく諸施策を戦略的かつ効果的に推進するため「山陽小野田市シビックアドバイザー」を設置し、専門的視点から適宜意見や助言を得ている。

　また、山陽小野田市のファンのまちづくりへの参画を円滑にしていくための仕組みとして、スマイルプランナー制度を作成し活動が進められていた。

＊詳細は、資料添付

所感　：山陽小野田市では、シティーセールスを推進していくために、スマイルプランナー制度にて個人・団体、市内・外の誰でもが登録することができ、つながる仕組みを構築し、特に発信力のある方（シンガーライター・市長・元アイドル等）に対してスペシャル・スマイルプランナー登録をお願いして山陽小野田市の魅力発信をしてもらっていた。

　伊勢市においても、同様の制度を構築して市内外へ発信を行う必要があると感じた。

視察概要：シティーセールス推進への取組について
　　コミュニティスクールへの取組について

視察場所：山陽小野田市役所

視察概要：山陽小野田市では、全小・中学校（小学校 12 校・中学校６校）でコミュニティスクールを平成 24 年に導入し、学校支援地域本部事業（現在：地域学校協働活動と名称変更）としてスタートをさせた。各本部には１～２名の地域コーディネーター（現名称：地域学校協働活動推進員）を配置し、各本部の事務局を学校に置き、事務は主に教頭先生が担当をしていた。予算については、総額 400 万円で、１校当たり 25 万円で事業を実施していた。

《取り組み例》

- 小学校、中学校合同清掃活動
- シンボルキャラクターの推進
- 剪定教室
- 海岸清掃活動
- ふれあい挨拶運動
- 小学校、中学校合同地区懇談会
- 公民館、小学校合同学習フェスタ
- ふるさと学習
- 販売学習
- 花いっぱい運動

＊詳細は、資料添付

○コミュニティスクールとは、学校運営協議会を設置した学校である。

○学校運営協議会とは、

・校長が作成する学校運営基本方針を承認する

・学校運営に関する意見を教育委員会又は校長に述べることができる

・教職員の任用に関して、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べることができる

○目的は、・地域に開かれた学校　・地域と共にある学校づくり　・学校を核とした学校づくり

所感　：　山陽小野田市教育委員会の方から説明を受けたが、この事業を実施したことで『どんな子どもに育って欲しいのか。20 年後 30 年後はどのような大人になって欲しいのか。どのような地域にしていきたいのか。』、学校・地域それぞれの課題が見え、目標を共有することから共通の目標となった。

大変すばらしいことだと感じた。

伊勢市でも、１校の小学校でコミュニティスクールが実施されているが、他校への広がりを期待するところである。

令和５年11月16日

伊勢市議会議長　品川　幸久　様

新政いせ　宮﨑　誠

新政いせ行政視察報告

１．日程、視察先及び視察内容

(1)　令和５年11月７日（火）

香川県坂出市：ビジネスサポートセンター事業について

(2)　令和５年11月８日（水）

山口県光市：ペット同行避難所の施行実施について（現地視察あり）

(3)　令和５年11月９日（木）

山口県山陽小野田市：①シティセールス推進への取組について

②コミュニティ・スクールへの取組について

２．視察所感

(1)　香川県坂出市：ビジネスサポートセンター事業について

四国の玄関口となる坂出市のビジネスサポートセンター事業では、２代目センター長である森さんを主軸に個々の事業者を起点に支援策の充実ではなく、支援策の実効的な活用に重点を置いた運営が展開されている。センター長については、中間評価会及び最終評価会の年２回の評価会で審査が行われるなど実績を積む必要があり、常に厳しい状況下におかれている。サカビズ（Saka-Biz）開設からの相談件数については、右肩上がりとなっており、市内個人事業者だけでなく、近隣自治体の方からも相談が入っていると伺う中で、愛知県名古屋市の事業者からは移住を含めての創業相談もあり認知度が高まっていると感じた。相談及び実績事例については、通常３年で出荷される河豚を５年まで育てた「奇跡の５年ふぐ」として、各種メディアでの取り上げから一流ホテルでの取り扱いに発展するなどサカビズの活動実績を伺うことができた。

財源については、令和６年度までデジタル田園都市国家構想交付金（旧地方創生推進交付金）事業として事業費の50％を交付金、残りの50％を一般財源から支出していることから、令和７年度以降の事業運営についての課題が残っている。また、サカビズも小出氏が発信したf-Bizをモデルとしているが、未来を切り拓こうとする創業者の声に応えることで地域産業の活性化や、単に売上アップを目指すものではなく、支援を生み出す「人」をどう活かしていくのか、発掘していくのかも課題となっている。小出氏のいう、「資金ではなく、アイデアで勝負」のようにカネではなく知恵を使い適切なソリューションを提供していけるのかが、ビジネスサポートセンターの在り方や課題となってくと思われる。本市でも同様に、強みを活かし、ターゲットを絞り、連携するというビジネスの３要素を軸に、新たな創業支援につながる仕組みづくりも必要であると感じた。

(2)　山口県光市：ペット同行避難所の施行実施について（現地視察あり）

本市ではペット同行における避難実績がないことから、光市のペット同行避難所の現地視察を含め説明を伺うこととなった。まず、ペット同行避難所については、他の指定避難所と同じ場所ではなく、別途高台に設けられた施設となっている。また、ペット専用のユニットハウス（9.74 ㎡のプレハブ）が３棟整備されており、飼い主となる市民は隣接する光テクノキャンパス研修センターの体育館を利用することで衛生面での配慮がされていることが分かった。ただし、ユニットハウス内に収容できる目安は、犬 12 匹、猫 16 匹、小動物 20 匹程度となっているため、大型犬などを収容するには専用ゲージの配置に困ることも予想される。大型犬については、隣接する駐車場を利用することで車内避難も実施可能であると伺うことができた。

発災時の対応として、市内動物病院（５施設）と協定を締結しており、ペット同行避難所運営に係る支援を受けられるようになっている。本市でも同様の取り組みや、受け入れ態勢など見習うべき点が多く見られた。これまで、本市では実績はないものの他自治体でのペット同行による避難については、ペットに対する誹謗中傷なども見られたのではないでしょうか。ペットとして迎えられるのではなく、一家族として迎えられているかたちが多く、発災時に離れ離れになった場合の心的ストレスの予防にも繋がるだけでなく、避難所においてはセラピー犬（猫）などによる心的ストレス緩和やケアができるのも忘れてはならない。避難所での良い環境をつくることもは大切であるとともに、ペット同行避難所運営についても様々な課題を抽出、解決していくことで本市においても同様の施設整備、環境づくりが必要であると思われる。

(3)　山口県山陽小野田市

①シティセールス推進への取組について

山陽小野田市のシティセールス推進におけるキャッチフレーズ「活力と笑顔あふれるまち～スマイルシティ山陽小野田～」を具現化すべく、スマイルをモチーフにしたロゴマークが作成されており、市民や市内事業者が利用できるシステムとなっている。ご当地ゆるキャラが流行ったときもあったが、何よりも分かりやすく、取り入れやすいロゴマークの活用は本市でもできるのではないかと考えさせられた。基本的な事業内容の本幹としては、本市の取り組みと変わらないと思われるが、如何に見せるか、市民が活用できるのかが相違点である。地域づくりの中で、シビックプライドを醸成し、様々な交流会を通じて繋がりを作り、市民の声を如何に拾い実現していくのかなど、スペシャル・スマイルプランナーの活用が見られた。取り組みのひとつが、まち全体の笑顔づくりにつながる活動として周知されている。本市では、観光や産業の力に頼ることなく、市民力を如何に活用していくかが課題であると考える機会となった。

②コミュニティ・スクールへの取組について

山陽小野田市のコミュニティ・スクールについては、学校と地域での取り組みとして様々な形で連携が取れているとともに「ふるさとへの愛着（シビックプライド）」の醸成にもつながっていと感じた。児童・生徒が学校運営協議会に参加し、学力向上だけでなく、地域のためにできることなど、こどもたちの声を学校づくりや地域づくりに活かしている点が見られた。全国的な課題ともいえるが、地域ボランティアとして支えていただける市民の高齢化が課題であり、後継者不足や、学校によっては活動内容が乏しいこと、児童・生徒の参画ができていないこともなども挙げられており、取り組みの好事例を如何に発信していくのか、共有していくのかが課題であると伺った。本市でも児童生徒数の大小はあるものの、地域活性化の糸口を見つけていく必要があると思われる。

令和５年１１月１５日

伊勢市議会議長　　品川　幸久　様

西山　則夫

会派行政視察の報告

１．期日及び視察先及び視察内容

令和５年１１月７日（火）
香川県坂出市
「ビジネスサポートセンター事業」

令和５年１１月８日（水）
山口県光市
「ペット同行避難所の試行実施」

令和５年１１月９日（木）
山口県山陽小野田市
「シティーセールス」「コミュニティスクール」

２．視察所感　（各市の詳細説明資料は別添を参照）

〇坂出市　　ビジネスサポートセンター事業

・ビジネスサポートセンター事業は四国初の「ビズモデル」拠点として、２１年３月に開始されている。２３年９月で累計相談件数２１００件の実績。

「ビズモデル」とは、対等なビジネスパートナーとして成果が出るまで一緒に挑戦し、お金をかけず事業者の強みを生かして、売上アップに貢献するもの。

・センター事業は坂出商工会議所と中小企業支援センターの設置協議からスタートしている。運営は坂出商工会議所に業務委託をしている。設置場所は市役所構内にあり、市業務として目的内使用となっており、建物と設備の管理も市が行っている。

・ｂｉｚの特徴は、アドバイスでなく事業者の強みを生かした提案、継続的な実行支援に置かれている。

・センター長（森　修氏）の役割は、実績が中間評価がされるから大変であるとの事。今後多くの課題があると推察されるが、成功を期待したい

・※　ｂｉｚを運営されているのは、小出宗昭氏で中小企業や起業、地域おこしなどを支援するビジネスコンサルタント。

○山口県光市　　ペット同行避難所の試行実施

・災害時にペットを連れていることが避難の障壁とならないよう、ペットのいる避難者とそうでない避難者双方が干渉し合うことなく避難できる環境を整備するため、ペット同行避難に対応できる専用避難所を試行実施している。

・ペット受け入れの条件・管理などは、詳細が決められている。避難時は、ペットと同行避難者は同じ空間とならない。ケージに入らない大型犬等の場合は車中避難としている。

・避難所の実績は

令和３年は大雨（２世帯・４名全員車中避難ケージ利用犬と猫１匹）と不発弾処理（２世帯・５名ケージ猫１匹）

令和４年台風１４号４世帯７名（内２世帯４名は車中避難、ケージ利用は猫３匹、車中犬１匹）

令和５年大雨避難者１世帯２名車中泊、ケージの利用無し

・試行実施中であり、利用件数は少ないので成果の判断は難しいと思われる。

○山陽小野田市　　「シティーセールス」「コミュニティスクール」

・シティーセールス推進の取組の定義として、”本市のファン”を増やす事とし、ファン自らがこのまちをよりよいまちにしようと、主体的かつ相互に協力をしながらまちづくりに参画することを期待している。

・ファンのまちづくりへの参画を円滑にしていく仕組みとして「スマイルプランナー」として登録する制度を設けている。

・市のPRとしてロゴマーク、イメージカラー（オレンジ色）などを選定し、公務において活用する際に「スマイルオレンジ」と名づけている。

・関係人口の創出・拡大の取組は市民だけでなく、市内に居住していない方もまちづくりに携わっていただくことで将来的な移住者の増加につなげていきたい。

・ロゴマーク、イメージカラーなどの施策は、視覚的に訴えることもあり有効なことだと思われた。

・コミュニティスクールの目的は、「学校運営協議会」をもとに地域に開かれた学校とし地域とともにある学校づくり、学校を核にした地域づくりを目指している。「学校運営協議会」は伊勢市の「学校評議委員会」と同様なものと理解した。

・上記とは別に地域教育協議会が設置されており、平成２４年度から「学校支援地域本部事業」（現在は地域学校協働活動に名称変更）の活動がされている。これは地域住民、学校支援ボランティア、地域コーディネーター方々の協力をいただきながら、学校支援活動（学社融合）実施している。地域協議会は全教職員と地域代表で構成されている。

この制度は伊勢市には無く参考になった。